様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　５月２４日現在

機関番号：８２６２２
研究種目：基盤研究（B）海外学術調査
研究期間：２００８～２０１１
課題番号：２０４０１０１５
研究課題名（和文）
レンブラントおよびレンブラント派における和紙による版画素描作品の研究
研究課題名（英文）
Prints and drawings on Japanese paper by Rembrandt and his circle
研究代表者
幸福　輝（Akira Kofuku）
独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・上席主任研究員
研究者番号：００１５００４５

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：美学・美術史
キーワード：レンブラント、和紙、版画

１．研究計画の概要
レンブラントおよびその周辺で制作された和紙による版画素描作品を世界各地の版画素描館で実地調査をおこない、同時に、その美術史的および文化交流史的意義の史料的調査をおこなう。

２．研究の進捗状況
主要な版画素描館での調査をおこない、多くの和紙刷り版画を確認することができた。また、１７、１８世紀の古い版画カタログ、売り立て目録などの調査から、ヨーロッパ各国でさまざまに異なる形で、レンブラントの和紙刷り版画の受容がなされていたことが判明した。その成果の一部は、２０１１年３月に国立西洋美術館で開催された展覧会「レンブラント　光の探求　闇の誘惑」およびそのカタログ所載の論考や作品解説に反映させることができた。
展覧会では、和紙を含む異なる種類の紙に刷られた同一の版画を並べて展示することにより、これまであまり知られてこなかったレンブラントの版画の新たな一面を提示することができたと思われる。また、同展のカタログの作品解説では、かなり詳しくこうした問題を議論した。幸福が寄せた「淡い色の紙―レンブラントの和紙刷り版画」では、和紙刷り版画がどのようにカタログ編纂者たちに認識されてきたかを、主として、レンブラントの１８世紀以来の版画カタログを中心にしながら辿ってみた。その結果、オランダでは「東インド紙」、フランスでは「中国紙」、イギリスでは「インド紙」という用法が圧倒的で、「和紙（＝日本からの紙）」という認識はほぼなかったこと、「和紙」という認識が生まれるのは１９世紀前半のフランスであろうことがほぼ確実になった。しかし、それ以降も、用語については混乱が見られ、その混乱は２０世紀にまで引き継がれることになった。現在、レンブラントが使用した多くの東洋紙は和紙であるという点で、多くのレンブラント版画研究者の意見は一致しているが、幸福の論考は、これまで曖昧なままにされてきた用語の問題について、一石を投じたと言えるだろう。
もっぱら、これまではレンブラントに調査の主眼を置いたこともあり、レンブラント以外の画家の和紙の調査については、あまり進んでいないが、和紙を使ったヤン・リーフェンスの素描や、シモン・ド・フリーヘルの版画などは見る機会を得た。この点については、最終年度にまとめて調査をおこないたい。

３．現在までの達成度
②概ね順調に進展している。
（理由）
和紙をテーマに据えたレンブラントの展覧会を開催することができたので、研究成果の社会的還元という点においては、満足すべき成果を挙げることができたと考えている。

４．今後の研究の推進方策
最終年度であり、今年はこれまでの調査をまとめるために、ロンドン、アムステルダム、パリ、ベルリンを中心に、問題を絞って実地調査をおこないたい。課題は、（１）レンブラントは４種類程度の異なる和紙を使用しているが、それらの使用になんらかの規則性があったのかどうか。（２）１７、１８世紀の各国諸史料において、レンブラントの和紙刷り版画はどのように評価されていたのか。（３）レンブラント以外の画家の手になる和

紙を利用した版画素描作品の情報収集

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
幸福 輝　「淡い色の紙―レンブラントの和紙刷り版画」（『レンブラント　光の探求/ 闇の誘惑』（展覧会カタログ所載）、２０１１年

〔学会発表〕（計　件）

〔図書〕（計１件）

幸福 輝（共著および責任編集）『レンブラント　光の探求/ 闇の誘惑』（展覧会カタログ）、２０１１年

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕